元総社蒼海遺跡群（131）

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

２０１９．３

前橋市教育委員会

元総社蒼海遺跡群（131）

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

２０１９．３

前橋市教育委員会

はじめに

前橋市は、関東平野の北西部に位置し、名山赤城山を背に利根川や広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情に溢れる群馬県の県都です。市域は豊かな自然環境に恵まれ、２万年前から人々が生活を始め、市内のいたる所にその息吹を感ぜられる遺跡や史跡、多くの歴史遺産が存在します。

古代において前橋台地には、広大に分布する穀倉地帯を控え、前橋天神山古墳などの初期古墳をはじめ、王山古墳・天川二子山古墳といった首長墓が連綿と築かれ、上毛野国の中心地として栄えました。また、続く律令時代になってからは総社・元総社地区に山王廃寺、国府、国分僧寺、国分尼寺など上野国の中枢をなす施設が次々に造られました。

中世になると、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鎬をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東三名城の一つに数えられ、「関東の華」とも呼ばれた厩橋城が築かれました。

やがて近代になると、生糸の一大生産地となり、横浜港から前橋シルクの名前で遠く海外に輸出され日本の発展の一翼を担いました。

今回、報告書を上梓する元総社蒼海遺跡群（131）は古代上野国の中枢地域の調査であり、上野国府推定地域にも近接することから、調査成果に多くの注目を集めております。今回の調査では、国府そのものに関連する遺構の検出、確認はかないませんでしたが、古墳時代から古代の住居跡や中世の堀跡等が検出されました。中世蒼海城の縄張りの全貌は未だ確認されておりません。とりわけ不明な点の多い蒼海地区西部の状況も、今回の調査でまた一つ新たな情報を得ることができました。残念ながら、現状のままでの保存が無理なため、記録保存という形になりましたが、今後、地域の歴史・前橋の歴史を解明する上で、貴重な資料を得ることができました。

最後になりましたが、関係機関や各方面の多大なるご配慮・ご尽力により調査事業を円滑に進められことができました。また、直接調査に携わってくださった担当者・作業員のみなさんに厚くお礼申しあげます。

本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

平成31年３月

前橋市教育委員会
教育長　塩　﨑　政　江

例　　言

1　本報告書は前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う元総社蒼海遺跡群（131）埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2　発掘調査の要項は次のとおりである。

遺跡名	元総社蒼海遺跡群（131）（遺跡コード30A239）
調査場所	群馬県前橋市元総社町1388-10ほか
監理指導	並木史一（前橋市教育委員会）
発掘・整理担当	佐野良平（技研コンサル株式会社）
発掘調査期間	平成30年12月14日～平成31年1月7日
整理・報告書作成期間	平成31年　1月8日～平成31年　3月27日

3　本書の原稿執筆はⅠを並木、他を佐野が担当した。

4　発掘調査・整理作業参加者は次のとおりである。

大川明子（技研コンサル株式会社）

安藤三枝子　河本ちさと　金井淳子　杉田友香　田所順子　田部井美砂子　細野竹美

5　本書における図面・写真・遺物は、前橋市教育委員会で保管している。

6　下記の諸氏・諸機関にご指導・ご協力を賜りました。記して謝意を表します。

井上測量設計株式会社　山下工業株式会社

凡　　例

1　挿図中に使用した北は座標北である。

2　挿図に国土地理院発行1/200,000『宇都宮』『長野』、1/25,000『前橋』、前橋市発行1/2,500都市計画図を使用した。

3　遺構名称は、竪穴住居跡：H、溝跡・堀跡：W、井戸：I、土坑：D、ピット：Pである。

4　遺構・遺物実測図の縮尺は原則的に次のとおりである。その他各図スケールを参照されたい。

遺構　住居跡・溝跡・堀跡・井戸・土坑・ピットほか・・・1/30、1/60　　全体図・・・1/200

遺物　土器・石器・・・1/3、1/4

5　本文および表中の計測値については（　）は現存値を、〔　〕は復元値を表す。

6　遺物実測図のトーン表現は以下の通りである。

遺物実測図・・・須恵器：[redacted]

目　　次

はじめに
例言・凡例
Ⅰ　調査に至る経緯 …… 1
Ⅱ　遺跡の位地と環境 …… 2
Ⅲ　調査方針と経過 …… 6
Ⅳ　基本層序 …… 6
Ⅴ　遺構と遺物 …… 7
Ⅵ　まとめ …… 15

Ⅰ　調査に至る経緯

本発掘調査は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴い実施され、20 年目にあたる。本調査地は、周辺で埋蔵文化財調査が長年にわたって行われていることから、遺跡地であることが確認されている。

平成 30 年 7 月 6 日付で前橋市長　山本　龍（区画整理課）（以下「前橋市」という。）より試掘確認調査依頼が提出された。これを受け、前橋市教育委員会（以下「市教委」という。）で同年 11 月 1 日に試掘確認調査を実施した結果、遺構が検出され、工事計画から遺構の現状保存は困難であると判断したため、記録保存を目的とした発掘調査実施に向けて協議を進めた。

平成 30 年 11 月 13 日付で前橋市より、埋蔵文化財発掘調査・整理業務に係る依頼が、市教委に提出された。市教委では既に他の発掘調査を実施中のため、市教委直営による調査実施が困難であると判断し、民間調査組織へ発掘調査業務を委託することで合意に至った。業務実施にあたっては市教委の作成する調査仕様書に則り、市教委による監理・指導のもと発掘調査を実施することとなった。同年 12 月 13 日付で前橋市と民間調査組織である技研コンサル株式会社との間で業務委託契約が締結され発掘調査に着手した。

なお、遺跡名称「元総社蒼海遺跡群 (131)」（遺跡コード：30A239）の「元総社蒼海」は土地区画整理事業名を採用し、「(131)」は過年度に実施した発掘調査と区別するために付したものである。

Fig.1　遺跡の位置

Ⅱ　遺跡の位置と環境

遺跡の位置（Fig. 1）　元総社蒼海遺跡群（131）は、前橋市街地から利根川を隔て西へ約 3.6km の地点、前橋市元総社町地内に近接して所在する。遺跡地の西側には関越自動車道が南北に、南側には国道 17 号、北側には主要地方道前橋・群馬・高崎線が東西に、また東には市道大友・石倉線が南北にそれぞれ走っている。

遺跡は、榛名山山麓の相馬ヶ原扇状地端部と前橋台地との移行地帯に立地する。遺跡周辺には、相馬ヶ原扇状地の伏流水を水源とする牛池川、染谷川が流れている。これらの河川の開析作用によって細長い微高地と低地が多く形成されており、その比高差は３～５ｍを測る。遺跡が立地する周辺は主に畑地として利用されていたが、前橋市中心部から続く市街地の西端にあたり、近年では元総社蒼海土地区画整理事業の進展によって宅地や商業施設が立ち並び、市街地化が拡大している。

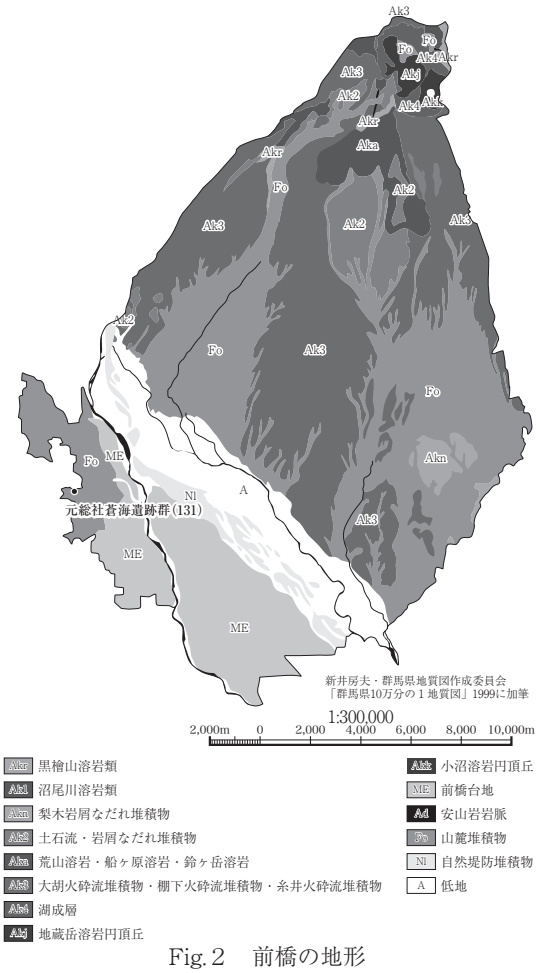


Fig. 2　前橋の地形

歴史的環境（Fig. 3・Tab. 1）　本遺跡が所在する元総社地域は、上野国府推定地や上野国分寺・国分尼寺を中心に連綿と遺跡が広がる地域であり、関越自動車道建設や区画整理事業などに伴う発掘調査が行われ、多くの遺構が確認されている。本遺跡周辺地域における時代毎の遺跡の概要は以下の通りである。

（1）縄文時代　八幡川右岸の微高地上に産業道路東［15］・産業道路西［16］、本遺跡の立地する牛池川右岸台地上に上野国分僧寺・尼寺中間地域［22］・元総社小見Ⅲ遺跡［59］・元総社蒼海遺跡群（24）などが挙げられ、竪穴住居跡が確認されている。本遺跡でも縄文時代前期から中期にかけての遺構を確認している。

（2）弥生時代　日高遺跡［18］［19］・上野国分僧寺尼寺中間地域［22］・正観寺遺跡［21］などがあるが、その分布は散在的である。この内、日高遺跡では浅間Ｃ軽石下の水田跡が確認されており、弥生時代後期から古墳時代前期にかけて継続して営まれた水田と捉えられている。

（3）古墳時代　本遺跡周辺は県内でも有数の古墳密集地域であり、それを代表するものとして総社古墳群が挙げられる。古墳時代後期・終末期に亘り、王山古墳［７］・総社二子山古墳［12］・愛宕山古墳［10］・宝塔山古墳［13］・蛇穴山古墳［８］などの首長墓が多数築造された。また、この時期には山王廃寺［４］が建立され、総社古墳群を含め、政治的中枢地域となる。

山王廃寺は昭和３年に日枝神社境内が「山王塔址」として国指定史跡となり、その後昭和 49 ～ 56 年にかけて７次にわたる本格的な発掘調査が行われた。この調査で金堂の検出および「放光寺」箆書の平瓦出土により山王廃寺が「山ノ上碑」「上野国交替実録帳」にみられる「放光寺」であることが有力視されるようになった。平成９～ 11 年の調査でも土坑から大量の塑像が出土し、平成 18・19 年度調査では北・東・西面、平成 20 年度調査では南面の回廊を検出している。さらに平成 21 年度調査では「推定中門」と「西側南側回廊」の周辺部が、平成 22 年度調査では北西隅の回廊と接するように「基壇建物跡」と「北方建物群」が確認されている。なお、この寺の塔心礎や石製鴟尾、根巻石等の石造物群は宝塔山古墳の石棺や蛇穴山古墳の石室と同系統の石造技術に

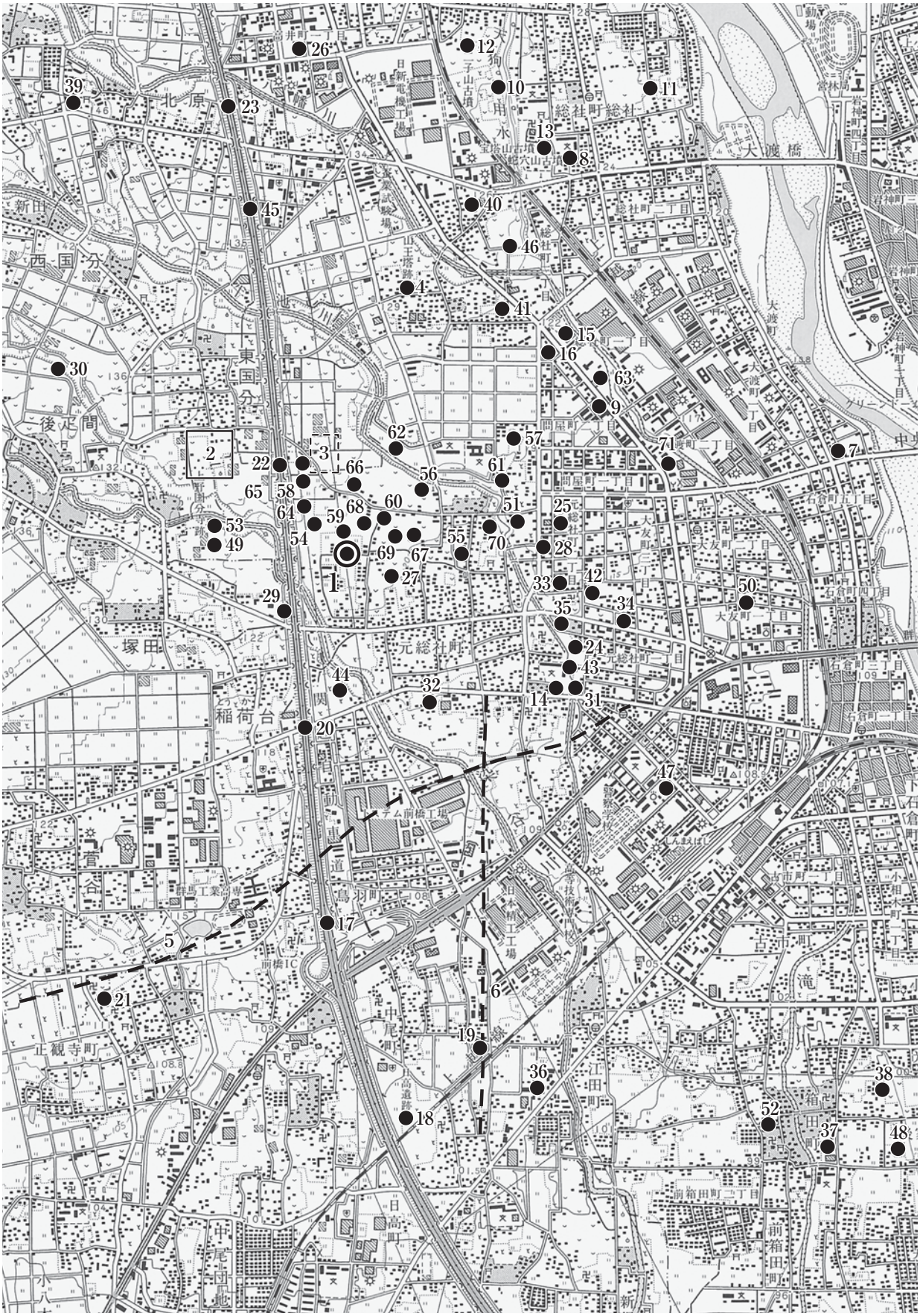


Fig.3　周辺遺跡図

よるものと考えられており、仏教文化と古墳文化とが併存しながら機能していた様子が窺える。

この時代の集落は牛池川と染谷川に挟まれた台地上に展開しているが、前期～中期の集落は散見される程度で、後期からの集落増加が看取できる。生産域としては、牛池川左岸一帯に広がる低地平野において、元総社明神遺跡、元総社北川遺跡、総社閑泉明神北Ⅳ・Ⅴ遺跡などで水田跡が確認されている。

（4）奈良・平安時代　奈良時代には上野国府が造営され、上野国分寺［2］・国分尼寺［3］の建立に示されるように、本遺跡周辺は古代の政治・経済・文化の中心地として再編成される。

上野国府は本遺跡付近の区域に約 900m 四方に推定され、関連遺跡として元総社小学校校庭遺跡［14］では県下最大級の掘立柱建物跡が検出され、元総社蒼海遺跡群（99）、上野国府等範囲調査確認 28・33・34 トレンチでは掘込地業を持つ建物跡が、元総社蒼海遺跡群（95）では方形の柱穴掘り方をもつ大型掘立柱建物跡が確認されている。元総社寺田遺跡［43］では「國府」・「曹司」・「国」・「邑厨」などの墨書土器や人形（ひとがた）が出土している。元総社明神遺跡［24］では南北方向の溝跡、閑泉樋遺跡［25］や元総社蒼海遺跡群（7）・（9）・（10）では東西方向の溝跡が確認され、国府域の外郭線の想定が為されている。また、周辺遺跡からは円面硯や緑釉陶器、巡方（腰帯具）なども出土しており、国府を考える上で貴重な資料となっている。

国分僧寺は大正 15 年に国指定史跡となり、昭和 40 年代から部分的な発掘調査が進められるようになった。昭和 55 年以降には本格的な調査が始まり、主要伽藍の礎石・築垣・堀等が確認されている。また、平成 24 年度から 28 年度にかけての第２期発掘調査において、これまでの金堂が講堂であったことが判明する等、伽藍配置の変更が行われている。国分尼寺は昭和 44・45 年のトレンチ調査により伽藍配置が推定され、その後平成 12 年度に前橋市埋蔵文化財発掘調査団により南辺での寺域確認調査が行われた。調査の結果、南東・南西隅の築垣と、それに平行する溝跡や道路状遺構等が確認されている。また、高崎市教育委員会による平成 28 年度の調査で講堂跡が尼坊跡であったことが判明し、平成 29 年度の調査では回廊跡の一部が確認されている。関連遺跡としては鳥羽遺跡［20］で神社遺構と工房跡が確認され、上野国分僧寺・尼寺中間地域［22］では大規模な集落・掘立柱建物跡群が検出されている。また、近郊にはＮ - 64° - Ｅ方向に東山道（国府ルート）が、日高遺跡［19］では幅約 4.5m の推定日高道が国府方向へ延びると推定されている。

当該期の一般的な集落は、古墳時代と同様に牛池川と染谷川に挟まれた台地上に立地するが、国府推定域の中心部での分布は少なく、国府域と居住域の区分けが看取できる。近年の調査による元総社蒼海遺跡群（40）で８世紀後半の住居跡内の一角に鍛冶遺構が検出されている。元総社蒼海遺跡群（41）では９世紀後半の鍛冶工房が検出され、同遺跡からは金の付着した灰釉陶器や奈良三彩といった貴重な遺物が出土している。また、元総社蒼海遺跡群（64）では８世紀前半には廃絶されたと考えられる製鉄炉跡（箱型炉）が１基、元総社稲葉遺跡［47］では 10 世紀に想定される製鉄炉跡（小型自立炉）が２基確認されている。

（5）中世　室町時代になると上野国守護上杉氏から守護代に任命された長尾氏が蒼海城を本拠地としこの地を治めた。元総社蒼海遺跡群では蒼海城の堀跡が多く検出されており、12 ～ 15 世紀の青白磁梅瓶、青磁酒会壺蓋・袴腰香炉などの貿易陶磁が多数出土している。天正年間以降は諏訪･秋元氏が蒼海城に入り当地の領主となるが、慶長６年（1601 年）に秋元長朝が総社城に移ると同時に蒼海城は廃城となった。また、当該期の周辺遺跡では大渡道場遺跡［71］の貨幣埋納遺構から 572 枚におよぶ銭貨が撚紐を通した「緡（さし）」の状態で六緡出土している。

Tab. 1　周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	番号	遺跡名	番号	遺跡名	番号	遺跡名	番号	遺跡名
1	**元総社蒼海遺跡群（130）**	11	遠見山古墳	21	正観寺遺跡Ⅰ～Ⅳ	31	寺田遺跡	41	昌楽寺廻向遺跡・Ⅱ遺跡
2	上野国分寺跡	12	総社二子山古墳	22	上野国分僧寺・尼寺中間地域	32	天神遺跡・Ⅱ遺跡	42	堰越Ⅱ遺跡
3	上野国分尼寺跡	13	宝塔山古墳	23	北原遺跡	33	屋敷遺跡・Ⅱ遺跡	43	元総社寺田遺跡Ⅰ～Ⅲ
4	山王廃寺跡	14	元総社小学校校庭遺跡	24	元総社明神遺跡Ⅰ～XⅢ	34	堰越遺跡	44	弥勒遺跡・Ⅱ遺跡
5	東山道（推定）	15	産業道路東遺跡	25	閑泉樋遺跡	35	大友屋敷Ⅱ・Ⅲ遺跡	45	国分境遺跡・Ⅱ・Ⅲ遺跡
6	日高道（推定）	16	産業道路西遺跡	26	柿木遺跡・Ⅱ遺跡	36	勝呂遺跡	46	大屋敷遺跡Ⅰ～Ⅵ
7	王山古墳	17	中尾遺跡	27	草作遺跡	37	村前遺跡	47	元総社稲葉遺跡
8	蛇穴山古墳	18	日高遺跡	28	閑泉樋南遺跡	38	五反田遺跡	48	五反田Ⅱ遺跡
9	稲荷山古墳	19	日高遺跡	29	塚田村東遺跡	39	熊野谷遺跡・Ⅱ・Ⅲ遺跡	49	上野国分寺参道遺跡
10	愛宕山古墳	20	鳥羽遺跡	30	後疋間遺跡Ⅰ～Ⅲ	40	村東遺跡	50	大友宅地添遺跡

番号	遺跡名	番号	遺跡名	番号	遺跡名	番号	遺跡名	番号	遺跡名
51	総社閑泉明神北遺跡・Ⅱ遺跡	56	元総社小見内Ⅲ遺跡	61	総社甲稲荷塚大道西Ⅲ・Ⅳ遺跡	66	元総社小見内Ⅶ遺跡	71	大渡道場遺跡
52	箱田川西遺跡	57	総社甲稲荷塚大道西遺跡・Ⅱ遺跡	62	元総社北川遺跡	67	元総社小見内Ⅷ遺跡		
53	元総社西川遺跡	58	元総社小見内Ⅱ遺跡	63	稲荷塚道東遺跡	68	元総社小見Ⅸ・元総社小見内Ⅸ遺跡		
54	元総社小見遺跡	59	元総社小見内Ⅲ遺跡	64	元総社小見Ⅳ・Ⅵ遺跡	69	元総社小見内Ⅹ遺跡		
55	元総社宅地遺跡１～23トレンチ	60	元総社小見内Ⅳ・Ⅵ遺跡	65	元総社小見Ⅴ遺跡	70	総社閑泉明神北Ⅴ遺跡		

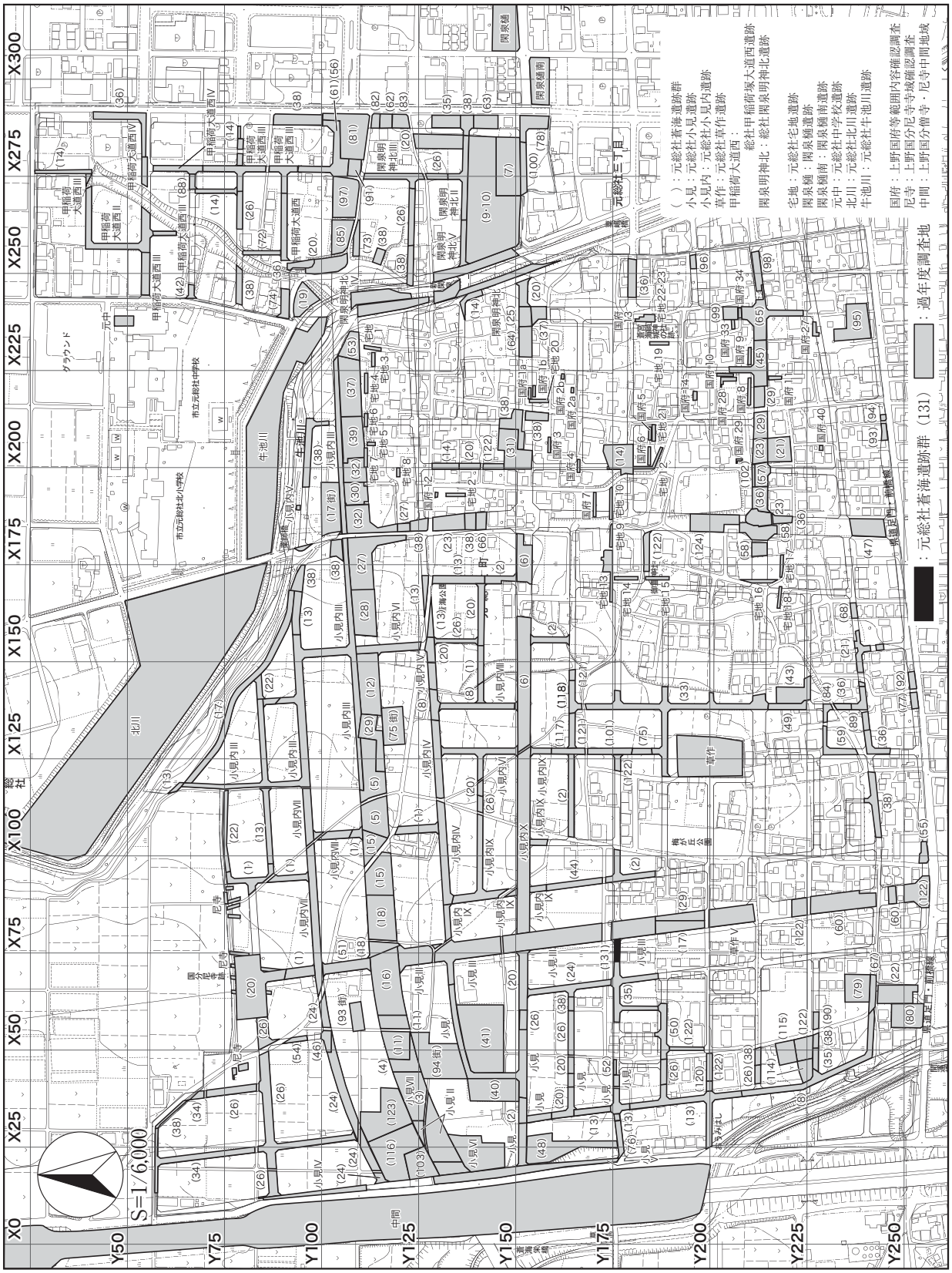


Fig. 4　周辺調査地点とグリッド設定図

Ⅲ　調査方針と経過

1　調査範囲と基本方針

委託調査箇所は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業地内であり、調査面積は 160 ㎡である。グリッド座標については国家座標（日本測地系第Ⅸ系）X = 44000.000、Y = － 72200.000 を基点とする４ｍピッチのものを使用し、経線をＸ、緯線をＹとして北西隅を基点に番付して呼称とした。公共座標は次のとおりである。

測点	日本測地系（第Ⅸ系）	世界測地系（第Ⅸ系 測地成果 2011）
X 75、 Y 176	X = 43296.000 m、Y = － 71900.000 m	X = 43650.911 m、Y = － 72191.757 m

発掘調査は遺構確認面まで重機（0.45 ㎥バックホー）にて表土掘削を行ない、遺構確認、遺構掘り下げ、遺構精査、測量・写真撮影の手順で実施した。遺構調査については土層の堆積状況を確認するため、土層ベルトを適宜設定した。なお、出土遺物に関しては、床面直上や遺構に伴うと判断したものは No 遺物とし、他の覆土中の破片等については一括遺物として取り上げた。

遺構の記録には、図面作成はトータルステーション・電子平板を用いての測量・編集、記録写真は 35mm モノクロ・リバーサル、デジタルカメラの３種類を用いて撮影を実施した。

整理作業における出土遺物の計測は、従来の手実測からキーエンス社製３Ｄスキャナー（VL-300）による機械計測に切り替えた。誤差１mm の１/1,000 という高精度な全点取得が可能で、従来の２次元図化以外の用途にも発展性が見込めるものである。

2　調査経過

12 月 14 日より現地での調査開始。17 日は重機による表土掘削と遺構確認調査を行い、18 日から遺構掘削作業に入った。25・27 日に調査区全景撮影を行う。28 日は重機による堀と井戸の底面確認調査を行い、同日から埋め戻し作業に入った。29 日に埋め戻し作業終了。１月７日に機材撤収、現地での作業を終える。

Ⅳ　基本層序

基本層序は調査区の北西角において観察を行った。調査区全体が平坦な地形の為、土層堆積厚は概ね共通している。表土層は 0.4 ～ 0.5 m程度堆積している。As-B 混土主体のⅡ層土は調査区の東端でのみ確認された。主に中世の遺構覆土に混じる。暗褐色土を主体とするⅢ層土は調査区全体で確認でき、住居跡・ピット覆土に主体的に混入する。Ⅴ層土は黄褐色の総社砂層。Ⅴ層以下も色調が違う総社砂層の堆積が続き、Ｗ － １の底面にあたる 118.67 ｍまでは確認している。遺構確認面はⅣ層下、Ⅴ層上面として遺構の検出を行った。

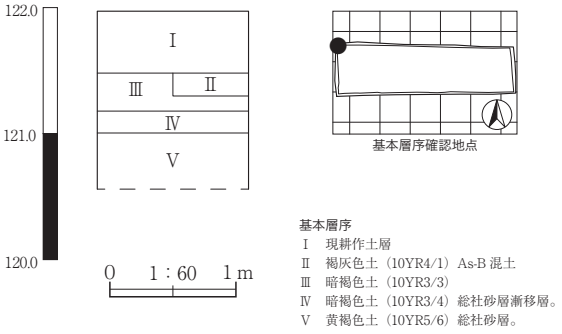


Fig. 5　基本層序

Ⅴ　遺構と遺物

１　竪穴住居跡

Ｈ－１号住居跡（Fig. ６・７・12、PL ２・３）

位置　X75・76、Y175・176　**主軸方向**　Ｎ－87°－Ｗ　**規模**　東西 3.44 m、南北 3.86 m、壁高 0.13 m。　**床面**　平坦。カマド全面がやや硬化。　**カマド**　東壁やや南よりに位置。大部分が深いカマドの廃絶行為と考えられる掘り込みによって破壊されている。袖石（総社砂層の切り石）は崩壊しているものの両方残存。　**主柱穴**　主柱穴４基。**住居内施設**　土坑２基。　**重複**　（古）Ｈ－１→Ｉ－１・Ｗ－２（新）　**掘り方**　住居跡南東側に浅い掘り込み。**出土遺物**　土師器坏を２点図示。　**時期**　出土遺物から７世紀末から８世紀初頭と想定される。

Ｈ－２号住居跡（Fig. ６・８）

位置　X72・73、Y175　**主軸方向**　Ｎ－71°－Ｅ　**規模**　南西隅のみの確認。北東－南西（1.65）m、北西－南東（0.87）m。　**床面**　平坦。　**出土遺物**　無し。　**時期**　年代根拠となる遺物等が無いため判断し難いが、周辺域での状況から奈良・平安時代に帰属すると想定される。

Ｈ－３号住居跡（Fig. ６・８・９・12、PL ２～４）

位置　X73・74、Y175・176　**主軸方向**　Ｎ－69°－Ｅ　**規模**　北東－南西 5.82 m、北西－南東〔5.44〕m。　**床面**　平坦。　**カマド**　東壁やや南よりに位置。カマドの左右にはピット（袖石の設置穴）が並ぶ。　**主柱穴**　主柱穴８基。柱の据え替えが行われたようで４基１組の主柱穴を２組確認。　**住居内施設**　貯蔵穴は住居跡内北西隅に位置する。形状は円形。　**重複**　（古）Ｈ－４→Ｈ－３（新）　**掘り方**　全体的に浅い掘り込み。　**出土遺物**　土師器甕を２点図示。（２）は貯蔵穴底面から出土。　**時期**　出土遺物から７世紀後半と想定される。

Ｈ－４号住居跡（Fig. ６・８・９・12、PL ２～４）

位置　X73・74、Y176・177　**主軸方向**　Ｎ－72°－Ｅ　**規模**　北東－南西 5.31 m、北西－南東（3.26）m、壁高 0.10 m。　**床面**　平坦。地山硬化床。　**主柱穴**　主柱穴２基。　**重複**　（古）Ｈ－４→Ｈ－３（新）　**掘り方**　無し。**出土遺物**　土師器坏を１点図示。　**時期**　出土遺物から７世紀中葉と想定される。

Ｈ－５号住居跡（Fig. ６・８・９・12、PL ２～４）

位置　X72・73、Y175・176　**主軸方向**　Ｎ－67°－Ｅ　**規模**　東西（1.87）m、南北 3.83 m、壁高 0.07 m。**床面**　平坦。カマド前面・住居跡中央部がやや硬化。　**カマド**　東壁やや南よりに位置。総社砂層の袖石と外された天井石が残存。共に柱状に面取りされている。　**掘り方**　全体的に浅い掘り込み。　**出土遺物**　須恵器蓋（１）と土師器坏（２）を図示。　**時期**　出土遺物から７世紀末から８世紀初頭と想定される。　**備考**　元総社蒼海遺跡群（35）１区Ｈ－22 号住居跡と同一遺構。

２　堀・溝・井戸・土坑・ピット

計測値については「Tab. ３　堀・溝・井戸・土坑・ピット計測表」を参照のこと。

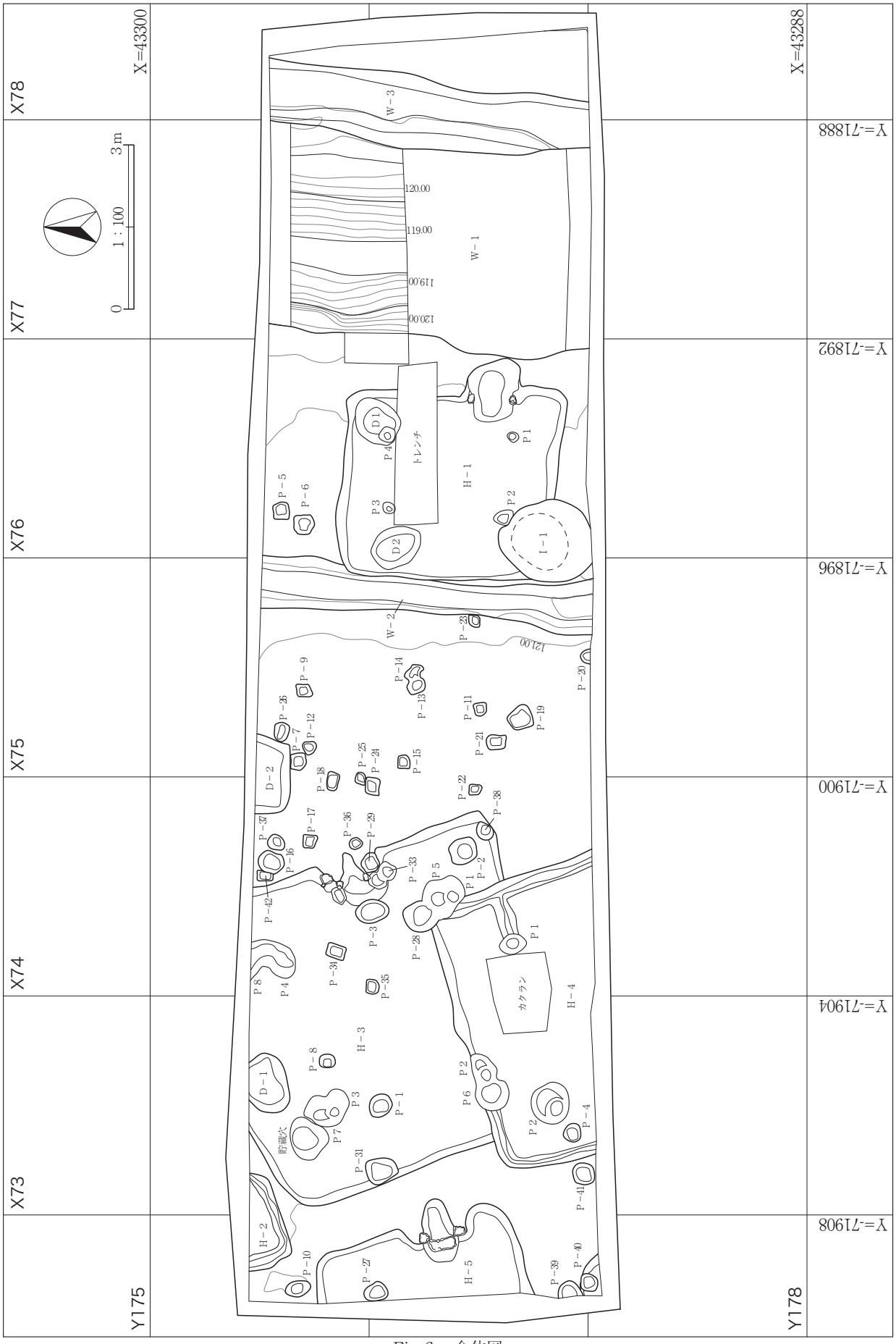
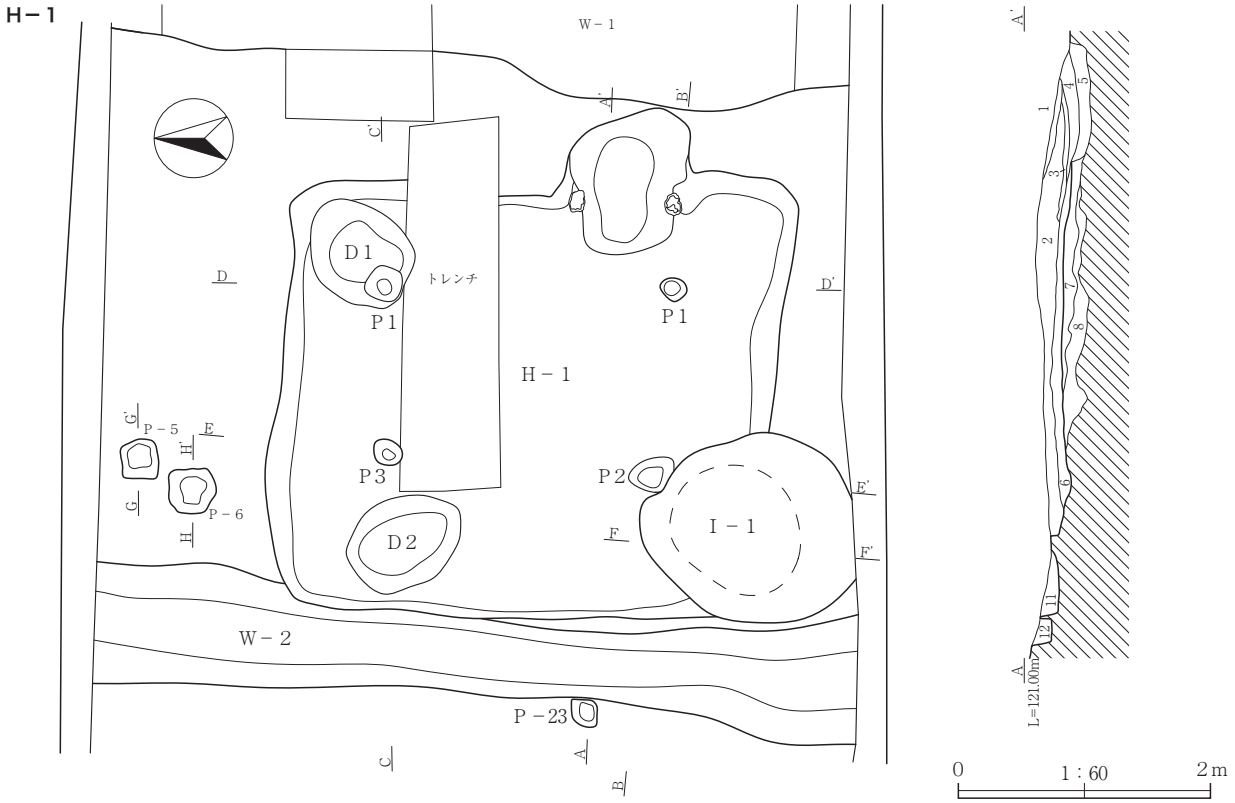
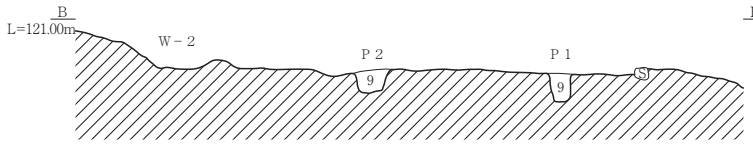
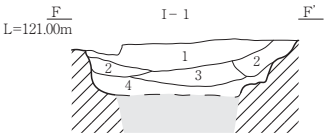
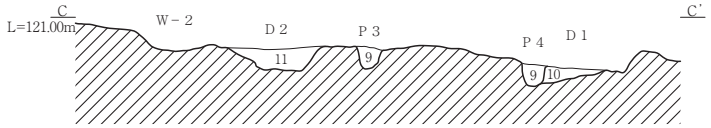

X78
X77
X76
X75
X74
X73
Y175
X=43300
X=43288
Y=-71888
Y=-71892
Y=-71896
Y=-71900
Y=-71904
Y=-71908
Y178
0
1 : 100
3 m
W－3
W－1
120.00
119.00
119.00
120.00
トレンチ
H－1
I－1
D1
D2
P1
P2
P3
P4
P－5
P－6
W－2
121.00
P－23
P－20
P－9
P－14
P－13
P－11
P－19
P－26
P－7
P－12
P－21
P－25
P－24
P－15
D－2
P－18
P－22
P－38
P－37
P－17
P－36
P－29
P－16
P－33
P－5
P－2
P－42
P－3
P－28
P－1
P－34
P－35
P－8
P－4
カクラン
H－4
H－3
D－1
P－8
P－2
P－6
P－3
P－1
P－7
P－4
P－31
P－41
H－2
P－10
P－27
H－5
P－39
P－40

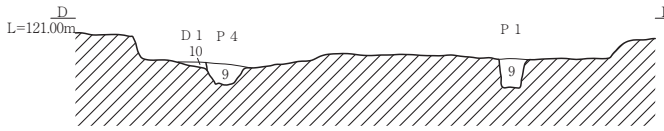
Fig. 6　全体図

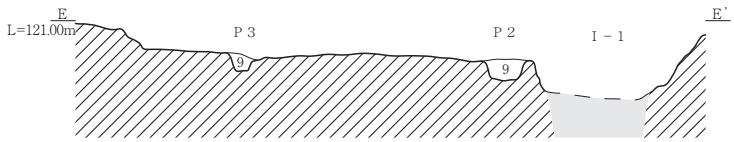












H－１号住居跡・W－２号溝・P－23号ピット　A～E

1　褐灰色土（10YR4/1）灰・焼土粒を中量含む。締まり有り、粘性有り。
2　暗褐色土（10YR3/3）As-C を中量、焼土粒・総社砂層を少量含む。締まり有り、粘性有り。
3　灰黄褐色土（10YR5/2）総社砂層土粒を少量含む。締まり有り、粘性やや強い。
4　暗褐色土（10YR3/3）焼土粒・総社砂層土粒（灰黄褐色）を少量含む。締まり有り、粘性有り。
5　暗褐色土（10YR3/3）総社砂層土粒（灰黄褐色）を微量含む。締まり有り、粘性有り。
6　褐色土（10YR4/4）総社砂層土ブロックを少量含む。締まり有り、粘性有り。
7　暗褐色土（10YR3/4）As-C・総社砂層土ブロックを少量含む。締まり有り、粘性有り。H－１掘り方。
8　暗褐色土（10YR3/4）総社砂層土ブロックを中量含む。締まり有り、粘性有り。H－１掘り方。
9　暗褐色土（10YR3/3）As-C・総社砂層土粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。H－１主柱穴。
10　暗褐色土（10YR3/3）As-C・総社砂層土粒を微量含む。締まり有り、粘性有り。H－１D１・D２。
11　暗褐色土（10YR3/4）As-C・総社砂層土ブロックを微量含む。締まり有り、粘性有り。W－２。
12　暗褐色土（10YR3/4）As-C・総社砂層土粒を微量含む。締まり有り、粘性有り。P－23。

I－１号井戸　F

1　暗褐色土（10YR3/3）やや砂質土。締まり有り、粘性弱い。
2　黒褐色土（10YR3/2）総社砂層粒を微量含む。締まり有り、粘性やや弱い。
3　黒褐色土（10YR3/2）総社砂層土ブロックを微量含む。締まり有り、粘性やや弱い。
4　黒褐色土（10YR3/2）総社砂層土（灰黄褐色）粒を少量含む。締まり有り、粘性やや弱い。

P－５・６号ピット　G・H

1　暗褐色土（10YR3/3）As-C・総社砂層土粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。
2　黒褐色土（10YR3/2）総社砂層土ブロックを少量、As-C を微量含む。締まり有り、粘性有り。

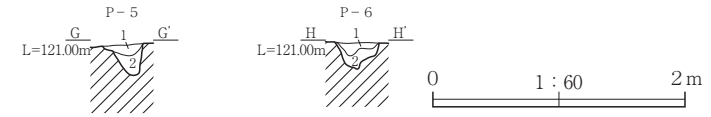
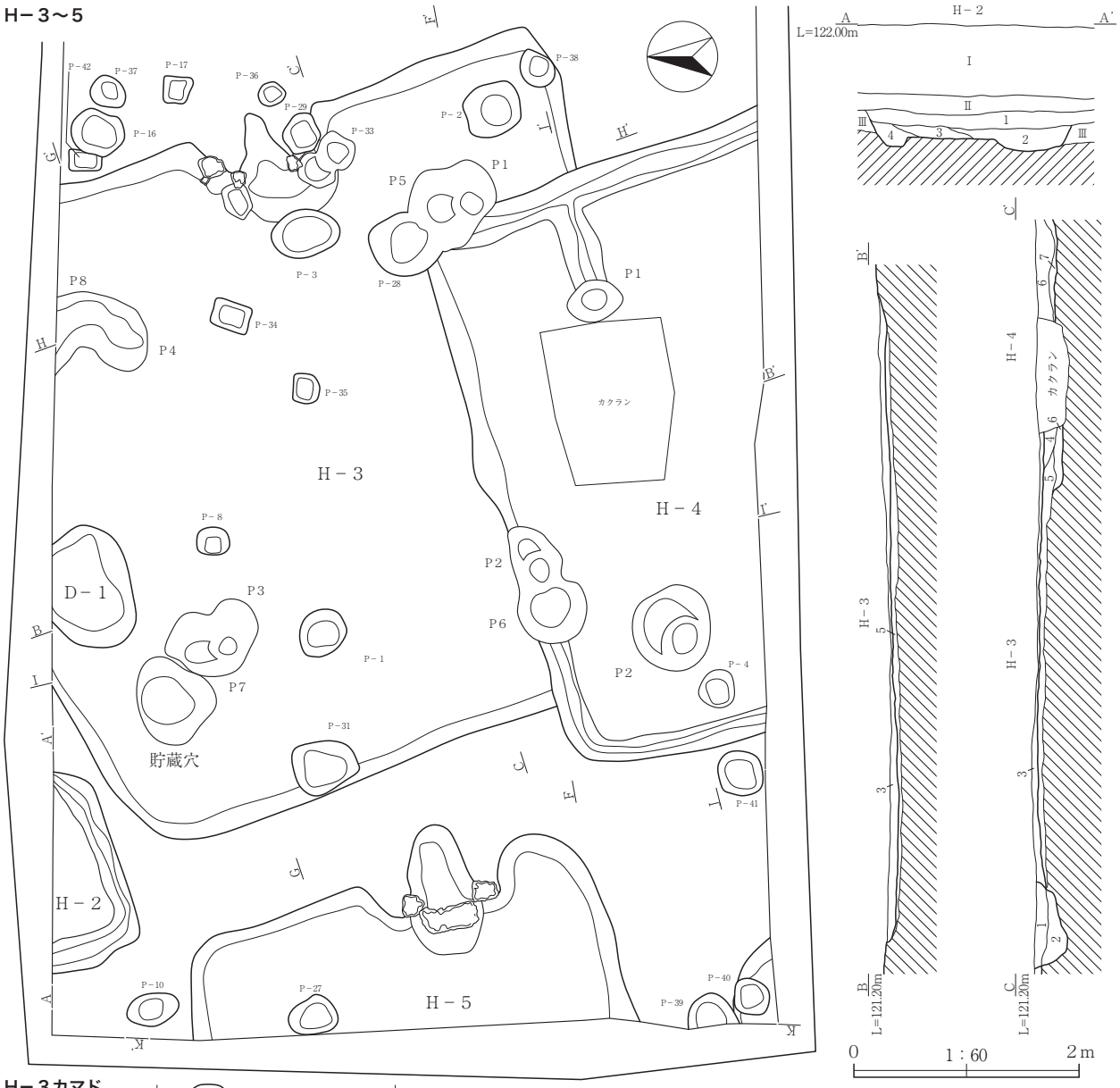
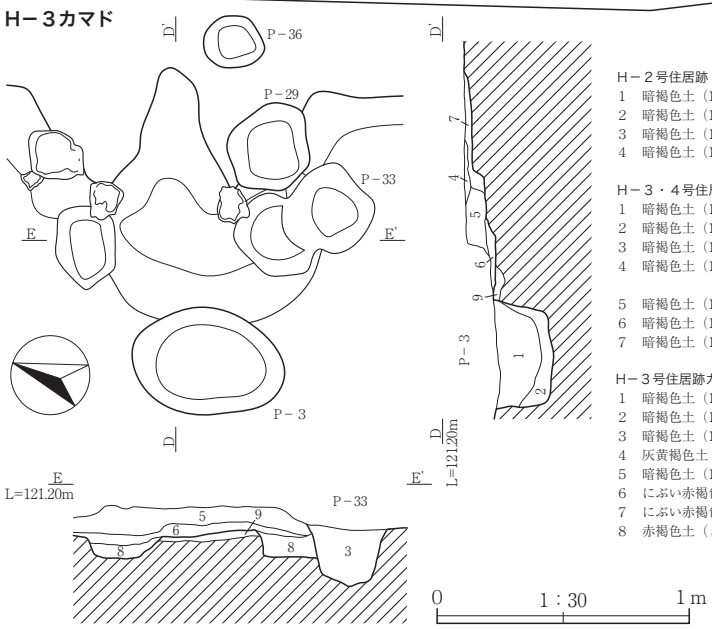


Fig.7　H－１号住居跡、W－２号溝、I－１号井戸、P－５・６・23号ピット





H－２号住居跡　A

1　暗褐色土（10YR3/3）As-C を中量、総社砂層ブロックを少量含む。締まり有り、粘性やや強い。
2　暗褐色土（10YR3/3）As-C・総社砂層ブロックを少量含む。締まり有り、粘性有り。
3　暗褐色土（10YR3/3）総社砂層ブロックを少量、As-C を微量含む。締まり有り、粘性有り。
4　暗褐色土（10YR3/3）総社砂層粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。

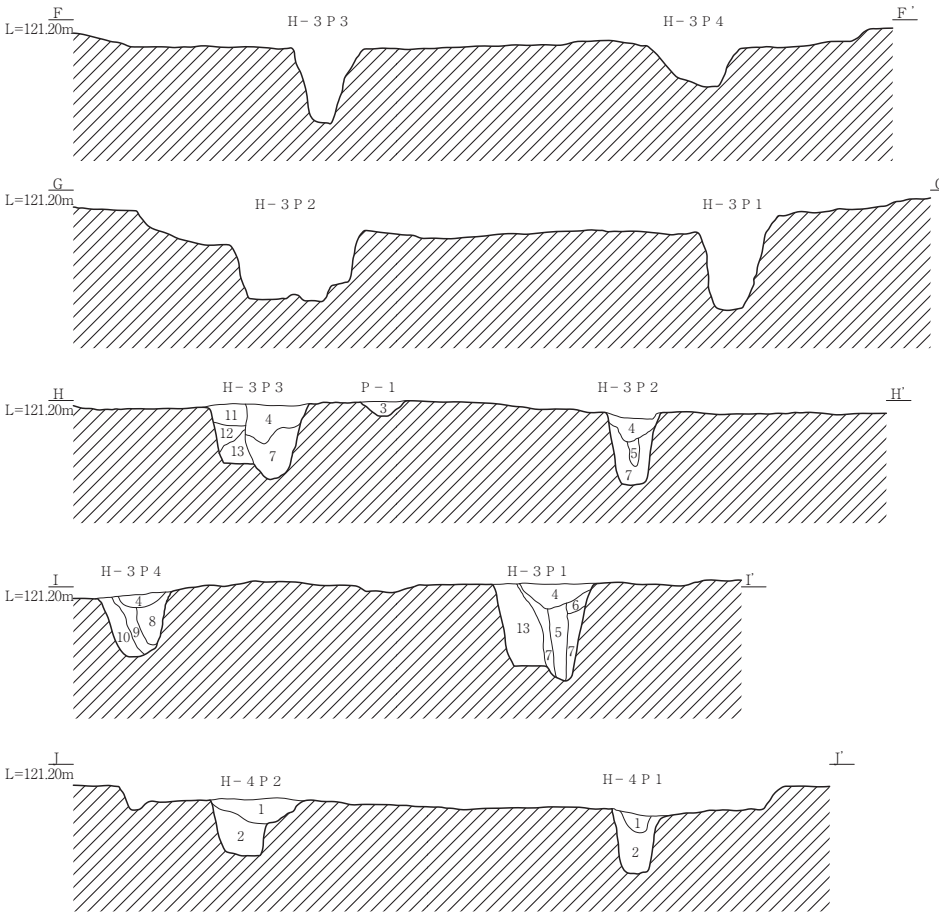
H－３・４号住居跡　B・C

1　暗褐色土（10YR3/4）総社砂層ブロックを少量含む。締まり有り、粘性やや弱い。D－１覆土。
2　暗褐色土（10YR3/4）総社砂層ブロックを中量含む。締まり有り、粘性やや弱い。D－１覆土。
3　暗褐色土（10YR3/3）As-C を中量、焼土粒・総社砂層ブロックを少量含む。H－３覆土。
4　暗褐色土（10YR3/4）総社砂層ブロックを少量、As-C を微量含む。
　　締まり有り、粘性やや強い。H－３掘り方。
5　暗褐色土（10YR3/4）総社砂層ブロックを中量含む。締まり有り、粘性やや強い。H－３掘り方。
6　暗褐色土（10YR3/3）As-C・総社砂層ブロックを中量含む。締まり有り、粘性有り。H－４覆土。
7　暗褐色土（10YR3/3）総社砂層粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。H－４覆土。

H－３号住居跡カマド、P－３・33 号ピット　D・E

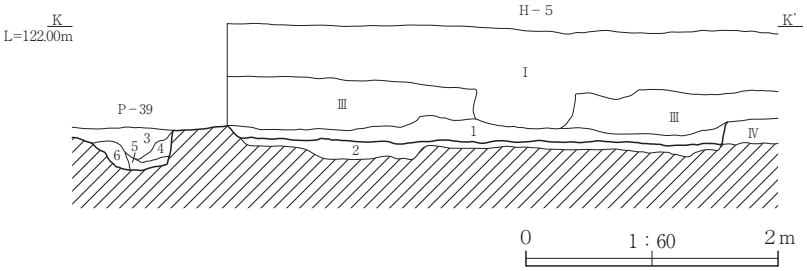
1　暗褐色土（10YR3/4）As-C・総社砂層粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。P－３覆土。
2　暗褐色土（10YR3/4）As-C・総社砂層粒を中量含む。締まり有り、粘性有り。P－３覆土。
3　暗褐色土（10YR3/4）As-C を微量、総社砂層粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。P－33 覆土。
4　灰黄褐色土（10YR5/2）総社砂層ブロックを少量、焼土粒を微量含む。締まり有り、粘性やや強い。
5　暗褐色土（10YR3/3）焼土粒を少量、灰・炭化物を微量含む。締まり有り、粘性有り。
6　にぶい赤褐色土（５YR4/4）焼土粒を中量、灰を少量、炭化物を微量含む。締まり有り、粘性有り。
7　にぶい赤褐色土（５YR4/4）焼土主体。締まり有り、粘性有り。
8　赤褐色土（５YR4/8）焼土粒・総社砂層粒を少量含む。締まり有り、粘性やや強い。カマド掘り方。

Fig.8　H－２～５号住居跡（１）



Ｈ－３・４号住居跡　Ｆ～Ｊ

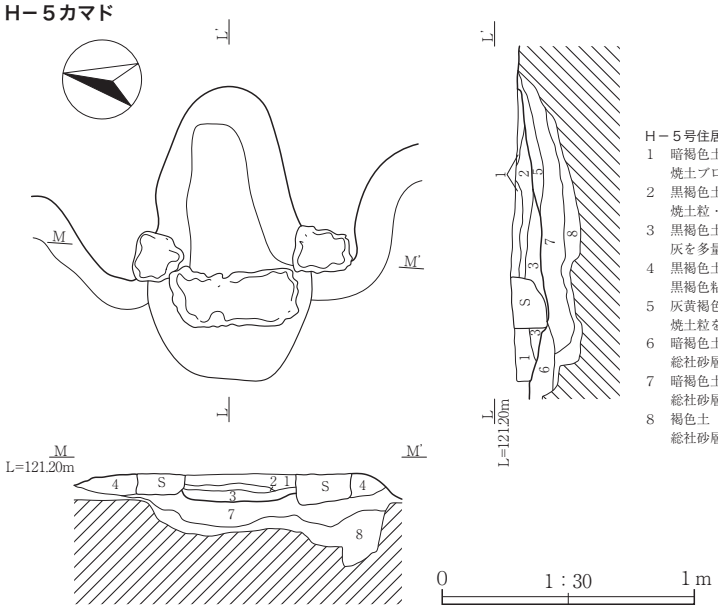
1　暗褐色土（10YR3/3）
　As-C を中量含む。締まり有り、粘性有り。
2　暗褐色土（10YR3/3）
　総社砂層粒を少量含む。
　締まり有り、粘性有り。
3　暗褐色土（10YR3/4）
　As-C・総社砂層粒を微量含む。
　締まり有り、粘性有り。
4　暗褐色土（10YR3/3）
　As-C を少量、総社砂層粒を微量含む。
　締まり有り、粘性有り。
5　暗褐色土（10YR3/3）
　総社砂層粒を中量、As-C を少量含む。
　締まり有り、粘性有り。
6　灰黄褐色土（10YR4/2）
　総社砂層ブロックを中量含む。
　締まり有り、粘性有り。
7　暗褐色土（10YR3/4）
　総社砂層ブロックを少量含む。
　締まり有り、粘性有り。
8　暗褐色土（10YR3/4）
　総社砂層粒を少量、As-C を微量含む。
　締まり有り、粘性有り。
9　暗褐色土（10YR3/4）
　総社砂層粒を少量含む。
　締まり有り、粘性有り。
10　灰黄褐色土（10YR4/2）
　総社砂層ブロックを少量含む。
　締まり有り、粘性有り。
11　黄褐色土（10YR5/6）
　総社砂層ブロックを少量含む。
　締まり有り、粘性有り。
12　黄褐色土（10YR5/6）
　総社砂層ブロックを中量含む。
　締まり有り、粘性有り。
13　黒褐色土（10YR2/3）
　総社砂層粒を中量含む。
　締まり有り、粘性有り。



Ｈ－５号住居跡、Ｐ－39 号ピット　Ｋ

1　暗褐色土（10YR3/3）
　As-C・総社砂層粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。
2　暗褐色土（10YR3/3）
　総社砂層ブロックを多量含む。締まり有り、粘性有り。
3　暗褐色土（10YR3/3）
　As-C・総社砂層粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。
4　黒褐色土（10YR3/2）
　総社砂層粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。
5　黒褐色土（10YR3/2）
　総社砂層ブロックを少量含む。締まり有り、粘性有り。
6　黒褐色土（10YR3/2）
　総社砂層粒を微量含む。締まり有り、粘性有り。

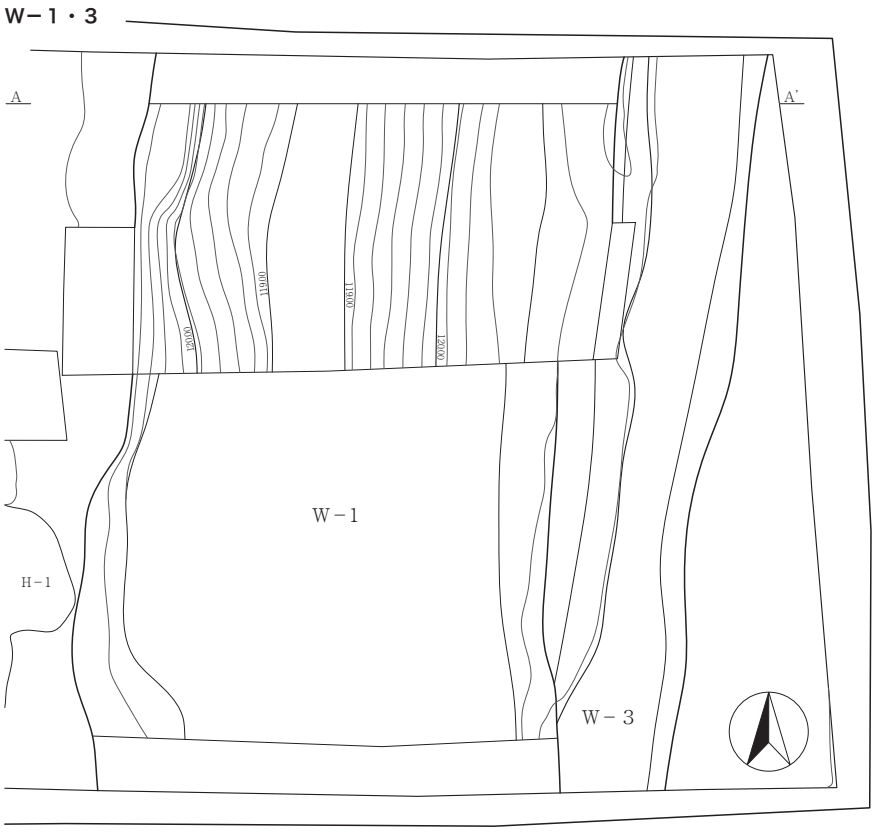
Ｈ－５カマド

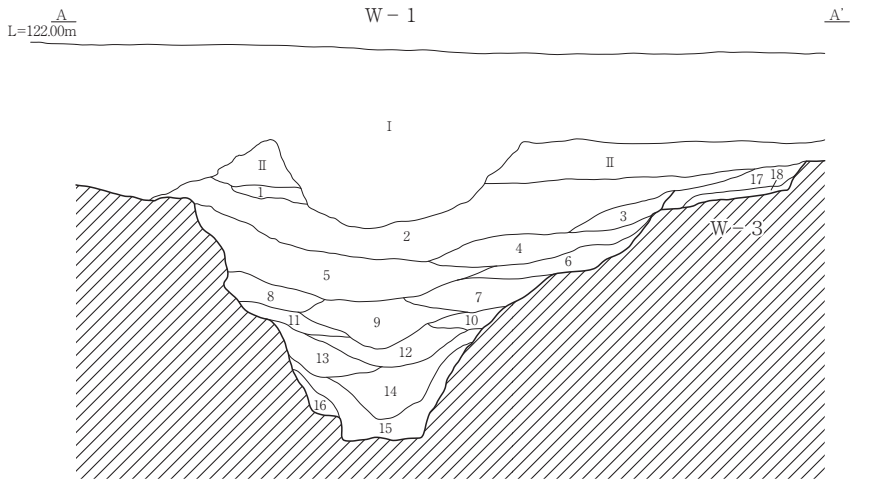


Ｈ－５号住居跡カマド　Ｌ・Ｍ

1　暗褐色土（10YR3/3）
　焼土ブロックを中量、炭化物を少量、灰を微量含む。締まり有り、粘性有り。
2　黒褐色土（10YR2/3）
　焼土粒・炭化物を少量、灰を微量含む。締まり有り、粘性有り。
3　黒褐色土（10YR2/2）
　灰を多量、炭化物を少量、焼土粒を微量含む。締まり有り、粘性有り。
4　黒褐色土（10YR3/2）
　黒褐色粘質土主体。締まりやや強い、粘性やや強い。カマド構築粘土。
5　灰黄褐色土（10YR4/2）
　焼土粒を少量、灰・総社砂層粒を微量含む。締まり有り、粘性有り。カマド掘り方。
6　暗褐色土（10YR3/4）
　総社砂層粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。カマド掘り方。
7　暗褐色土（10YR3/3）
　総社砂層ブロック・焼土粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。カマド掘り方。
8　褐色土（10YR4/6）
　総社砂層ブロックを微量含む。締まり有り、粘性有り。カマド掘り方。

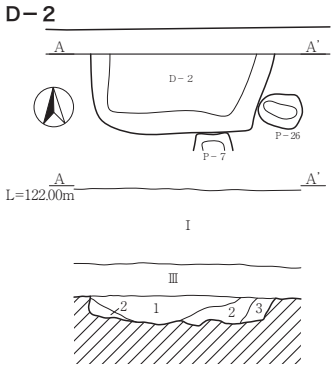
Fig.9　Ｈ－２～５号住居跡（２）



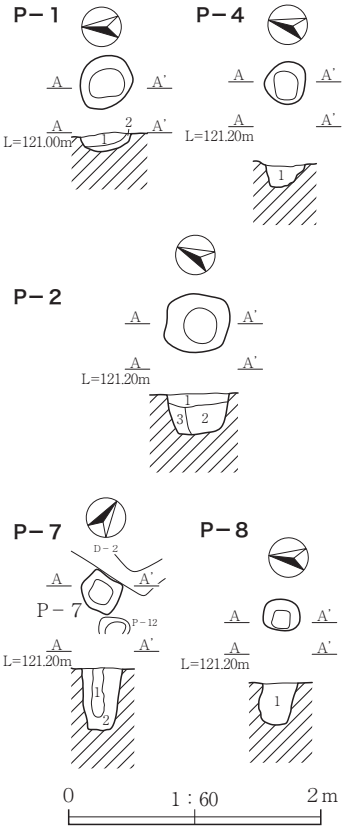


W－１・３号堀　A
1　暗褐色土（10YR3/3）As-B 混土を中量、総社砂層粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。
2　暗褐色土（10YR3/3）総社砂層ブロック・As-B 混土を少量含む。
3　暗褐色土（10YR3/4）総社砂層ブロック・As-B 混土を少量、黒色粘質土を微量含む。締まり有り、粘性あり。
4　暗褐色土（10YR3/4）総社砂層粒を中量、As-B 混土を少量、総社砂層ブロックを微量含む。締まり有り、粘性あり。
5　暗褐色土（10YR3/3）総社砂層粒を中量、総社砂層（灰褐色）粒を少量、As-B 混土を微量含む。締まり有り、粘性あり。
6　暗褐色土（10YR3/4）総社砂層粒を少量、As-B 混土を微量含む。締まり有り、粘性あり。
7　暗褐色土（10YR3/3）総社砂層（灰褐色）粒を中量含む。締まり有り、粘性あり。
8　暗褐色土（10YR3/3）総社砂層（灰褐色）粒、総社砂層粒を中量含む。締まり有り、粘性あり。
9　暗褐色土（10YR3/3）総社砂層（灰褐色）粒を少量、総社砂層ブロックを微量含む。締まり有り、粘性あり。
10　黒褐色土（10YR3/2）黒色粘質土ブロックを少量、総社砂層（灰褐色土）粒を微量含む。締まり有り、粘性有り。
11　褐色土（10YR4/4）総社砂層ブロックを中量含む。締まり有り、粘性有り。
12　暗褐色土（10YR3/3）総社砂層（灰褐色）粒・黒色粘質土粒を少量含む。締まり有り、粘性あり。
13　暗褐色土（10YR3/3）総社砂層（灰褐色）粒を少量含む。締まり有り、粘性あり。
14　暗褐色土（10YR3/3）総社砂層粒・炭化物を少量含む。締まり有り、粘性あり。
15　暗褐色土（10YR3/3）総社砂層（灰褐色）粒を中量、総社砂層（灰褐色）ブロックを少量含む。締まり有り、粘性あり。
16　暗褐色土（10YR3/3）総社砂層（灰褐色）粒を中量含む。締まり有り、粘性あり。
17　褐色土（10YR4/6）総社砂層ブロックを中量、As-B 混土を少量含む。締まり有り、粘性有り。
18　暗褐色土（10YR3/4）総社砂層粒を中量、As-B 混土を含む。締まり有り、粘性有り。

0　1：60　2m

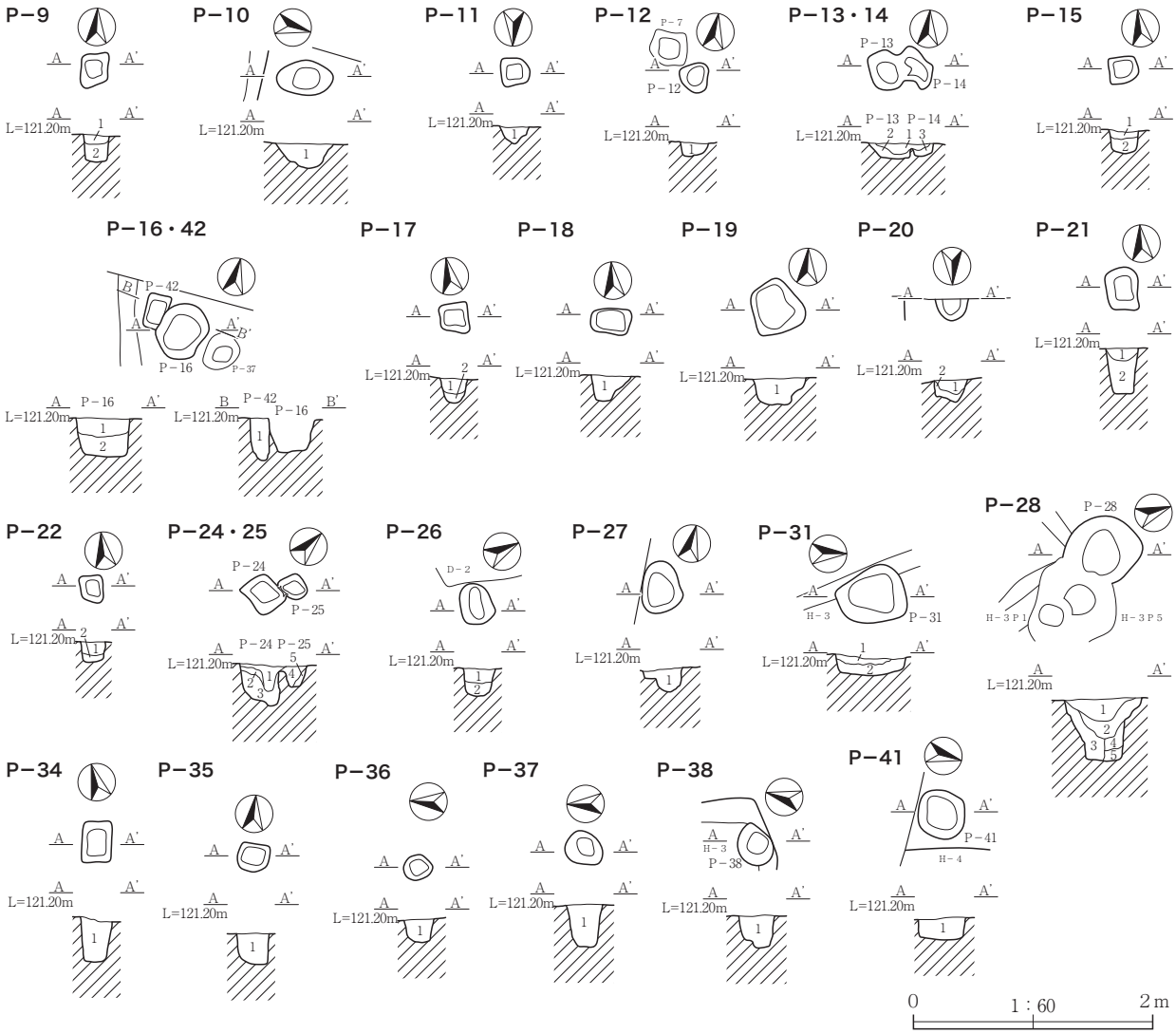


D－２号土坑　A
1　暗褐色土（10YR3/3）
総社砂層ブロックを中量、As-C を少量含む。
締まり有り、粘性有り。
2　暗褐色土（10YR3/3）
総社砂層粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。
3　褐色土（10YR4/4）
総社砂層粒を微量含む。締まり有り、粘性有り。



P－１号ピット　A
1　暗褐色土（10YR3/3）
As-C・総社砂層ブロックを中量、焼土粒を少量含む。
締まり有り、粘性有り。
2　暗褐色土（10YR3/3）
As-C を中量含む。締まり有り、粘性有り。
P－２号ピット　A
1　暗褐色土（10YR3/3）
As-C・総社砂層粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。
2　暗褐色土（10YR3/3）
総社砂層粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。
3　暗褐色土（10YR3/4）
総社砂層ブロックを少量含む。締まり有り、粘性有り。
P－４・８号ピット　A
1　暗褐色土（10YR3/3）
As-C・総社砂層粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。
P－７号ピット　A
1　暗褐色土（10YR3/3）
As-C を少量、総社砂層粒を微量含む。
締まり有り、粘性有り。
2　暗褐色土（10YR3/3）
総社砂層ブロックを中量含む。締まり有り、粘性有り。

Fig.10　W－１・３号堀、D－２号土坑、ピット（１）



P−9号ピット　A
1　暗褐色土（10YR3/3）As-C を少量、総社砂層粒を微量含む。締まり有り、粘性有り。
2　暗褐色土（10YR3/3）総社砂層粒を少量、As-C を微量含む。締まり有り、粘性有り。
P−10号ピット　A
1　暗褐色土（10YR3/3）総社砂層ブロックを中量、As-C を微量含む。締まり有り、粘性有り。
P−11号ピット　A
1　暗褐色土（10YR3/3）As-C・総社砂層粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。
P−12号ピット　A
1　暗褐色土（10YR3/4）As-C・総社砂層粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。
P−13・14号ピット　A
1　暗褐色土（10YR3/3）As-C・総社砂層粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。
2　黄褐色土（10YR5/6）総社砂層粒を中量含む。締まり有り、粘性有り。
3　黄褐色土（10YR4/6）総社砂層粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。
P−15号ピット　A
1　暗褐色土（10YR3/3）As-C を少量、総社砂層粒を微量含む。締まり有り、粘性有り。
2　暗褐色土（10YR3/3）総社砂層粒を少量、As-C を微量含む。締まり有り、粘性有り。
P−16号ピット　A
1　暗褐色土（10YR3/3）As-C を少量、総社砂層粒を微量含む。締まり有り、粘性有り。
2　暗褐色土（10YR3/3）総社砂層粒を少量、As-C を微量含む。締まり有り、粘性有り。
P−17号ピット　A
1　暗褐色土（10YR3/3）As-C・総社砂層粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。
2　暗褐色土（10YR3/4）As-C を中量、総社砂層粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。
P−18号ピット　A
1　暗褐色土（10YR3/3）総社砂層粒を中量、As-C を少量、炭化物を微量含む。締まり有り、粘性有り。
P−19号ピット　A
1　暗褐色土（10YR3/3）As-C・総社砂層粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。
P−20号ピット　A
1　暗褐色土（10YR3/3）総社砂層粒を少量、As-C を微量含む。締まり有り、粘性有り。
2　暗褐色土（10YR3/4）総社砂層粒・As-C を微量含む。締まり有り、粘性有り。
P−21号ピット　A
1　暗褐色土（10YR3/3）総社砂層粒・As-C を少量含む。締まり有り、粘性有り。
2　暗褐色土（10YR3/4）総社砂層粒を中量、As-C を微量含む。締まり有り、粘性有り。
P−22号ピット　A
1　暗褐色土（10YR3/3）As-C・総社砂層粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。
2　暗褐色土（10YR3/4）総社砂層粒を少量、As-C を微量含む。締まり有り、粘性有り。
P−24・25ピット　A
1　暗褐色土（10YR3/3）As-C・総社砂層粒を少量、炭化物を微量含む。締まり有り、粘性有り。
2　暗褐色土（10YR3/3）As-C・総社砂層ブロックを少量含む。締まり有り、粘性有り。
3　暗褐色土（10YR3/4）総社砂層ブロックを中量、As-C を微量含む。締まり有り、粘性有り。
4　暗褐色土（10YR3/3）総社砂層ブロックを少量、As-C を微量含む。締まり有り、粘性有り。
5　暗褐色土（10YR3/4）総社砂層ブロックを中量、As-C を微量含む。締まり有り、粘性有り。
P−26号ピット　A
1　暗褐色土（10YR3/3）As-C を少量含む。締まり有り、粘性有り。
2　暗褐色土（10YR3/4）As-C・総社砂層ブロックを少量含む。締まり有り、粘性有り。
P−27号ピット　A
1　暗褐色土（10YR3/3）As-C・総社砂層ブロックを少量含む。締まり有り、粘性有り。
P−28号ピット　A
1　黄褐色土（10YR5/8）総社砂層ブロックを中量含む。締まり有り、粘性有り。
2　暗褐色土（10YR3/3）As-C・総社砂層粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。
3　黒褐色土（10YR2/2）総社砂層粒を微量含む。締まり有り、粘性有り。
4　黄褐色土（10YR4/6）総社砂層ブロックを中量含む。締まり有り、粘性有り。
5　黄褐色土（10YR4/6）総社砂層粒を多量含む。締まり有り、粘性有り。
P−31号ピット　A
1　暗褐色土（10YR3/3）As-C・総社砂層ブロックを少量含む。締まり有り、粘性有り。
2　暗褐色土（10YR3/4）総社砂層ブロックを中量、As-C を少量含む。締まり有り、粘性有り。
P−34号ピット　A
1　暗褐色土（10YR3/3）As-C・総社砂層粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。
P−35号ピット　A
1　暗褐色土（10YR3/3）As-C・総社砂層粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。
P−36号ピット　A
1　暗褐色土（10YR3/3）As-C を少量、総社砂層粒を微量含む。締まり有り、粘性有り。
P−37号ピット　A
1　暗褐色土（10YR3/3）As-C・総社砂層粒を微量含む。締まり有り、粘性有り。
P−38号ピット　A
1　暗褐色土（10YR3/3）As-C・総社砂層粒を微量含む。締まり有り、粘性有り。
P−41号ピット　A
1　暗褐色土（10YR3/3）As-C・総社砂層粒を微量含む。締まり有り、粘性有り。

Fig.11　ピット（2）

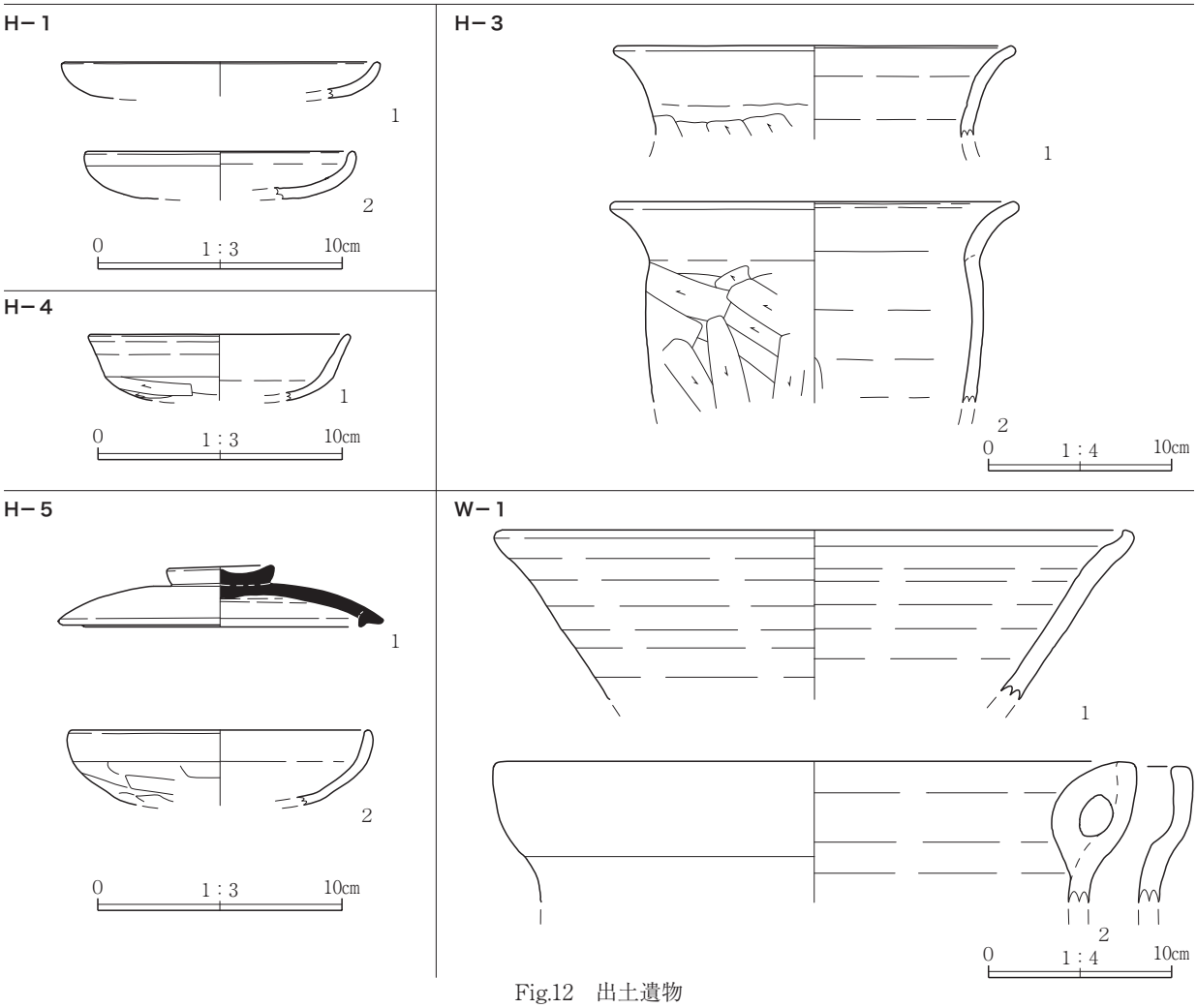


Fig.12　出土遺物

Tab. 2　出土遺物観察表

H－1

No	出土位置	種　別	口径（cm）	底径（cm）	高さ（cm）	胎　土	色　調	器形、成・整形、文様の特徴	残存状況、備考
1	床面直上	土師器　坏	〔13.0〕	-	(1.4)	白色粒	橙色	外面：口縁部横ナデ。 内面：横ナデ。	口縁部片。
2	カマド	土師器　坏	〔11.0〕	-	(1.8)	白色粒	橙色	外面：口縁部横ナデ。底部ヘラケズリのちナデ。 内面：横ナデ。	口縁～底部片。

H－3

No	出土位置	種　別	口径（cm）	底径（cm）	高さ（cm）	胎　土	色　調	器形、成・整形、文様の特徴	残存状況、備考
1	覆土	土師器　甕	〔22.0〕	-	(5.1)	小石	にぶい橙色	外面：口縁部横ナデ、以下縦位ヘラケズリ。 内面：横ナデ。	口縁～胴上部片。
2	貯蔵穴	土師器　甕	〔22.3〕	-	(11.0)	白色粒	にぶい橙色	外面：口縁部横ナデ、以下縦位ヘラケズリ。 内面：横ナデ。	口縁～胴上部片。

H－4

No	出土位置	種　別	口径（cm）	底径（cm）	高さ（cm）	胎　土	色　調	器形、成・整形、文様の特徴	残存状況、備考
1	覆土	土師器　坏	〔10.6〕	-	2.7	褐色粒	橙色	外面：口縁部横ナデ、以下ヘラケズリ。 内面：ナデ。	口縁～底部片。

H－5

No	出土位置	種　別	口径（cm）	底径（cm）	高さ（cm）	胎　土	色　調	器形、成・整形、文様の特徴	残存状況、備考
1	覆土	須恵器　蓋	13.3	-	2.5	白色粒	褐灰色	外面：ロクロナデ、頂部にボタン状の摘みを貼り付け。 内面：ロクロナデ。	2/3 残存。
2	床面直上	土師器　坏	(13.2)	-	(3.1)	褐色粒	にぶい橙色	外面：口縁部横ナデ、以下ヘラケズリ。 内面：ナデ。	口縁～底部片。

W－1

No	出土位置	種　別	口径（cm）	底径（cm）	高さ（cm）	胎　土	色　調	器形、成・整形、文様の特徴	残存状況、備考
1	覆土	瓦質　鉢	〔35.0〕	-	(9.2)	灰色粒	褐灰色	内外面：ロクロナデ。	口縁～体部片。
2	覆土	瓦質　内耳鍋	〔35.0〕	-	(5.8)	黒・白色粒	褐灰色	内外面:ロクロナデ。口縁部内面に紐状の耳を張付ける。	口縁部片。

Tab. 3　堀・溝・井戸・土坑・ピット計測表

堀・溝

遺構名	グリッド	確認長（m）	上幅（m）	下幅（m）	深さ（m）	形状等	重複（古→新）	備考
W－1	X76・77、Y175～177	5.88	4.10	0.62	2.21	断面形状薬研	W－3→W－1	中世
W－2	X75・76、Y175～177	6.07	1.00	0.43	0.30	断面形状浅い箱形	H－1→W－2	
W－3	X77・78、Y175～177	5.91	(0.92)	(0.66)	0.38	断面形状浅い逆台形	W－3→W－1	中世

井戸・土坑・ピット

遺構名	グリッド	長軸（m）	短軸（m）	深さ（m）	平面形状
I－1	X75・76、Y176・177	(1.77)	1.50	2.65	円形
D－1	X73、Y175	1.07	(0.78)	0.29	楕円形
D－2	X74・75、Y175	1.43	(0.63)	0.24	長方形
P－1	X73、Y176	0.42	0.41	0.15	円形
P－2	X74、Y176	0.51	0.45	0.32	方形
P－3	X74、Y175・176	0.61	0.43	0.23	楕円形
P－4	X73、Y176	0.34	0.32	0.17	円形
P－5	X76、Y175	0.31	0.29	0.24	方形
P－6	X76、Y175	0.39	0.36	0.21	不整形
P－7	X75、Y175	0.31	0.28	0.60	方形
P－8	X73、Y176	0.29	0.25	0.33	方形
P－9	X75、Y175	0.29	0.22	0.23	方形
P－10	X72、Y175	0.47	0.29	0.20	楕円形
P－11	X75、Y176	0.24	0.22	0.14	方形
P－12	X75、Y175	0.26	0.25	0.11	不整形
P－13	X75、Y176	0.34	0.24	0.13	方形
P－14	X75、Y176	0.34	0.22	0.10	不整形
P－15	X75、Y176	0.24	0.22	0.20	方形
P－16	X74、Y175	0.47	0.38	0.32	楕円形
P－17	X74、Y175	0.23	0.23	0.21	方形
P－18	X74・75、Y175	0.33	0.21	0.22	長方形
P－19	X75、Y176	0.44	0.38	0.22	方形
P－20	X75、Y176・177	0.28	(0.19)	0.18	円形
P－21	X75、Y176	0.36	0.27	0.38	長方形
P－22	X74、Y176	0.23	0.20	0.17	方形
P－23	X75、Y176	0.22	0.21	0.14	方形
P－24	X74、Y175・176	0.31	0.25	0.34	方形
P－25	X74・75、Y175	0.21	0.20	0.17	方形
P－26	X75、Y175	0.34	0.29	0.23	方形
P－27	X72、Y175・176	0.42	0.33	0.20	不整形
P－28	X74、Y176	0.59	(0.55)	0.52	円形
P－29	X74、Y175・176	0.34	0.32	0.18	方形
P－31	X73、Y175・176	0.61	0.50	0.18	不整形
P－33	X74、Y176	0.33	0.29	0.31	方形
P－34	X74、Y175	0.34	0.25	0.38	方形
P－35	X74、Y175・176	0.26	0.23	0.26	方形
P－36	X74、Y175	0.23	0.21	0.19	方形
P－37	X74、Y175	0.31	0.26	0.36	不整形
P－38	X74、Y176	0.34	0.28	0.27	楕円形
P－39	X72、Y176	0.44	(0.29)	0.32	楕円形
P－40	X72、Y176・177	0.33	0.32	0.28	方形
P－41	X73、Y176・177	0.40	0.39	0.19	方形
P－42	X74、Y175	0.29	0.18	0.35	長方形

※I－1の深さはトレンチで確認。P－30・32は欠番。

Ⅵ　まとめ

蒼海城に関連する堀

本遺跡周辺域は近年の発掘調査の増加に伴い中世（蒼海城関連）の堀跡が多く検出されている。本遺跡W－1・3も出土遺物や堀の形状・土層堆積状況から中世に帰属する堀跡と考えられる。周辺遺跡の調査成果と照らし合わせ、本遺跡の堀の位置付けについて検討してみたい。

W－1　本遺跡で確認された南北に走向するW－1の延長部はFig.13を見る限りでは確認されていない。本遺跡の北東に位置する元総社小見Ⅲ遺跡で検出されていない事から、未調査の場所で堀が止まるか方向転換したと考えられる。南側延長部には調査された箇所が無く、堀の存在を確認する事はできないが、元総社蒼海遺跡群（35）等で確認されている東西方向の堀（堀底道と推測）と交差すると考えられ、この場所までは堀が続くと推測される。Fig.13のA・Bの堀とW－1の軸方向は同じでN－3°－Eを測る。周辺での中世の堀も近い数値であることから、周辺域の中世遺構（堀）の主軸方向を示していると考えられる。W－1は他遺跡で接続する遺構も無く全体像を把握することはできないが、2.2 mという深さから区画・防御面の意識の強さを感じる。

Ｗ－３　Ｗ－３は形状・走向方向から元総社小見Ⅲ遺跡の４区Ｗ－５の延長部分にあたると考えられる。Ｗ－５は浅い溝状、断面形状逆台形を呈しており、As-B 混土が主体覆土となっている。本遺跡Ｗ－１と比べ堀底が浅い事から防御面より区画を意識した堀であったと考えられる。

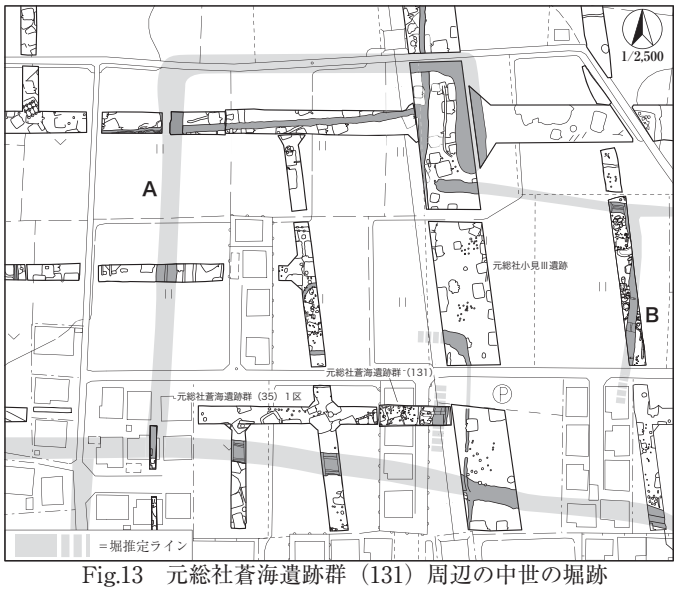


Fig.13　元総社蒼海遺跡群（131）周辺の中世の堀跡

元総社蒼海遺跡群（35）との関連

本遺跡は元総社蒼海遺跡群（35）１区（以下、蒼海（35））の東側に隣接している。いくつかの遺構は両遺跡を跨いで検出されている（Fig。14 参照）事から、本来の遺構の事実記載がされていない。ここでは両遺跡の調査成果を合わせ、改めて各遺構の規模・形状等について記してみたい。

住居跡　本遺跡Ｈ－５は蒼海（35）Ｈ－22 と同一の住居跡である。東西軸 3.56 m、南北軸 3.97 m、主軸方向Ｎ－67°－Ｅ、地山硬化床。南西隅にカマドを設置する。貯蔵穴や柱穴は確認されなかった。出土遺物は蒼海（35）では極めて少なかったが、本遺跡では床面近くから須恵器の蓋、土師器の坏が確認されている。住居跡の帰属年代は土器の年代から７世紀末から８世紀初頭と想定される。

掘立柱建物跡　蒼海（35）Ｂ－１は南北２間、東西２間の側柱の掘立柱建物跡柱で、建物は東・南へ其々と延びると想定と報告されている。蒼海（35）の東に隣接する本遺跡ではその延長部分と考えられるピット（Ｐ－27・31・41）を確認した。Ｐ－27・31 はＢ－１Ｐ３・Ｐ４の側壁ライン延長線上に位置し、Ｐ－41 はＰ－31 との側壁ラインがＢ－１Ｐ１～Ｐ３の側壁ラインと平行関係にある。柱間はＢ－１：1.78 ～ 1.91 m、Ｐ－27 ～ Ｐ－31 の柱間：2.2 m、Ｐ－31 ～ Ｐ－41 の柱間（２間分）：3.79 m を測り、平均 1.8 ～ 2.0m の柱間を持つ。Ｐ－31 より東側ではこの柱間間隔ではピットが存在しない為、Ｐ－31 が建物の北東角と考えられる。またＢ－１Ｐ１とＰ－41 のライン上でピットが確認されていない為、ここには側壁ラインが通らず南へと建物が延びていると推測される。掘立柱建物跡の規模は東西軸（柱心心）6.24 m、南北軸（5.0）m、主軸Ｎ－０°－Ｅ。各ピットの深さは遺構確認面が両遺跡で若干違う為多少の誤差が生じるが概ね同じ深さである。遺構年代は本遺跡Ｈ－５と重複し、これより新しいと考えられる事から８世紀以降と想定される。

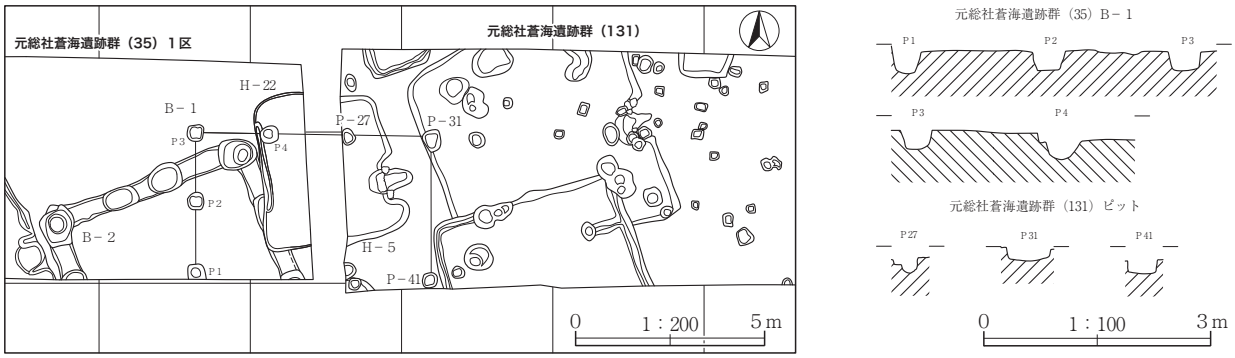
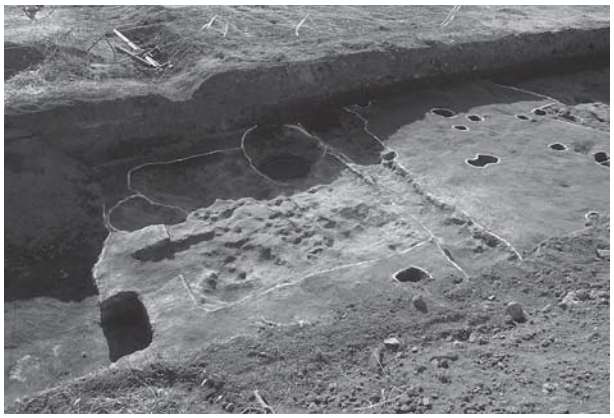
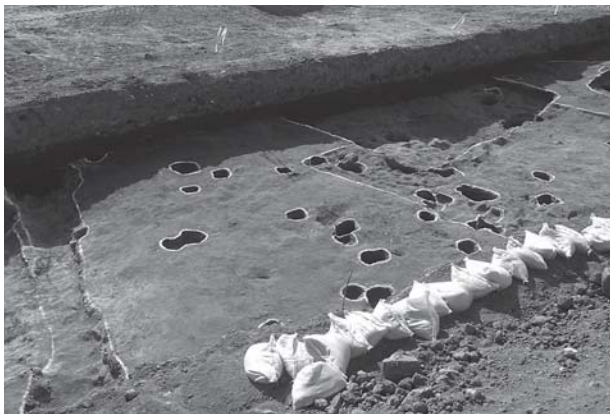


Fig.14　元総社蒼海遺跡群（35）・（131）遺構配置図

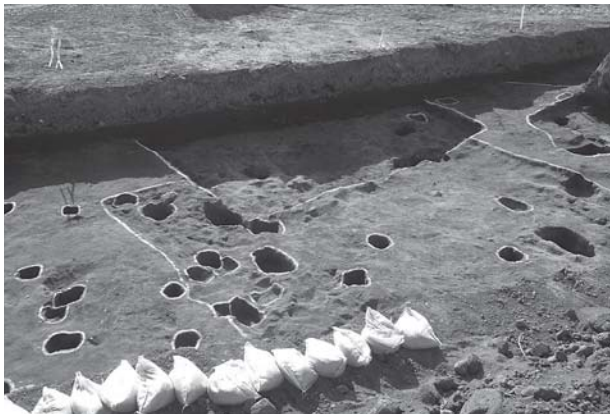
調査区全景（西から）



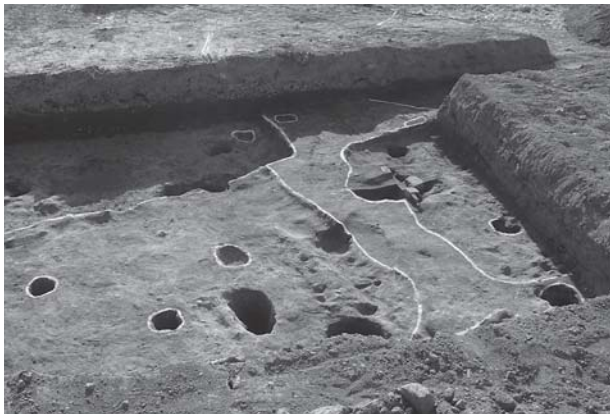
調査区全景１（北から）



調査区全景２（北から）

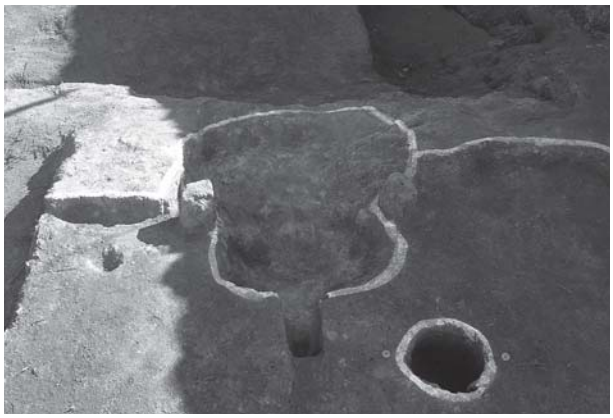


調査区全景３（北から）

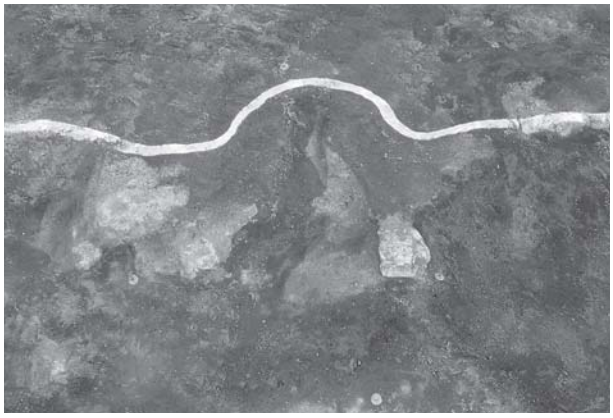


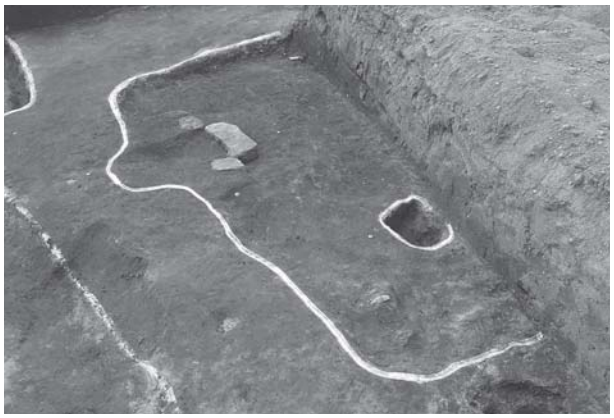
調査区全景４（北から）

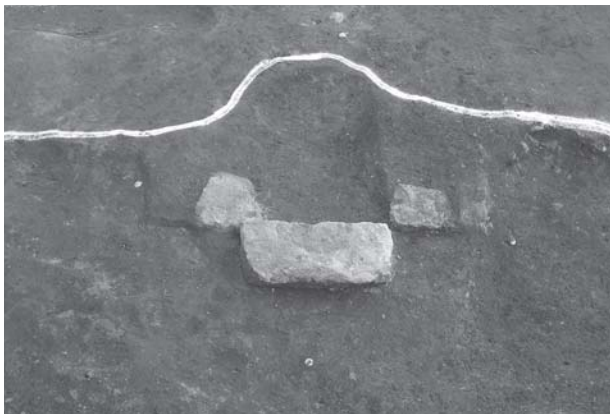
Ｈ－１号住居跡全景（西から）

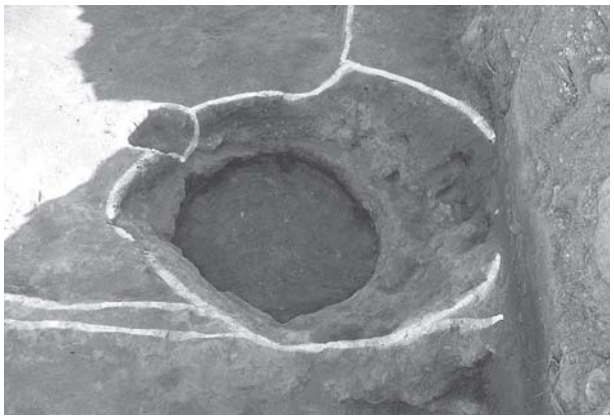

Ｈ－１号住居跡カマド全景（西から）

Ｈ－３・４号住居跡全景（西から）


Ｈ－３号住居跡カマド全景（西から）


Ｈ－５号住居跡全景（北東から）


Ｈ－５号住居跡カマド全景（西から）


Ｉ－１号井戸全景（西から）

ピット群全景（南西から）

Ｗ－１・３号堀全景（南西から）

Ｈ－１－１

Ｈ－１－２

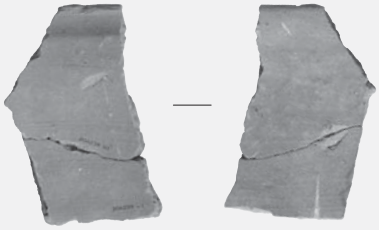
Ｈ－３－１（1/4）

Ｈ－３－２（1/4）

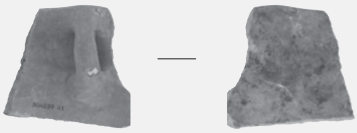
Ｈ－４－１

Ｈ－５－１

Ｈ－５－２



Ｗ－１－１（1/4）



Ｗ－１－２（1/4）

報告書抄録

ふりかな	もとそうじゃおうみいせきぐん（131）
書名	元総社蒼海遺跡群（131）
副書名	前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	－
シリーズ名	－
シリーズ番号	－
編著者名	佐野良平
編集機関	技研コンサル株式会社
編集機関所在地	〒371－0031　群馬県前橋市下小出町 1-15-3
発行機関	前橋市教育委員会
発行機関所在地	〒371－0853　群馬県前橋市総社町3-11-4
発行年月日	2019年3月27日

ふりがな	ふりがな	コード		位置		調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	北緯	東経			
もとそうじゃおうみいせきぐん 元総社蒼海遺跡群 （131）	まえばししもとそうじゃまち 前橋市元総社町 1388-10ほか	102021	30A239	36°39’7	139°2’85	20181214 ～ 20190107	160㎡	前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
もとそうじゃおうみいせきぐん 元総社蒼海遺跡群 （131）	集落	古墳 奈良 中世	竪穴住居　5軒 溝・堀　3条 井戸　1基 土坑　2基 ピット　41基	土師器 須恵器 石器	・古墳～奈良時代の集落 ・蒼海城に関連する堀

元総社蒼海遺跡群（131）
前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2019年3月17日　印刷
2019年3月27日　発行

発行　前橋市教育委員会
〒371－0853　群馬県前橋市総社町3-11-4
TEL　027-280-6511
編集　技研コンサル株式会社
印刷　朝日印刷工業株式会社